

オランダの補償的就学前教育のカリキュラムにみる 科学的根拠の位置づけ

福田, 紗耶香
九州大学大学院人間環境学府

<https://hdl.handle.net/2324/7164765>

出版情報 : 国際教育文化研究. 20, pp.27-37, 2021-02. 九州大学大学院人間環境学研究院国際教育文化研究会
バージョン :
権利関係 :



オランダの補償的就学前教育のカリキュラムにみる科学的根拠の位置づけ

福田 紗耶香

はじめに

本稿は、オランダ青少年研究所（Nederlands Jeugdinstituut、以下 NJi）が幼児教育プログラムの認証のために各プログラム開発組織から収集した資料「総合的説明—介入プログラム・ピラミッド (Uitgebreide beschrijving Interventie Piramide)」 「総合的説明—介入プログラム・ウックとブック (Uitgebreide beschrijving Interventie Uk en Puk)」の内容における二つのプログラムの類似点と相違点を整理し、オランダの幼児教育に埋め込まれた発達観や幼児教育観に影響を与えている要素を明らかにする上でのカリキュラム分析の重要性を確認するものである。

オランダでは「教育において不利な立場にある子ども」の教育格差を軽減、もしくは予防するための就学前教育(Voor- en vroegschoolse educatie, 以下 VVE)が取り組まれている。オランダにおいて「教育において不利な立場にある子ども」とは、本人の能力や成績に関係なく、親の学歴の低さに起因する不利を被っている子ども、をはじめとして、経済的、社会的、文化的に好ましくない環境によって、学校での成績が影響を受けているような子どもであると定義されている¹。オランダでは、対象となる子どもが多い学校への加配教員や、母語教育など、多様な取り組みがこれまでに行われてきた。本研究では、その中でも、幼児教育プログラムに着目する。

1. VVE プログラムの基本条件とプログラム認証の仕組み

VVE プログラムの内容に入る前に、本節ではプログラムの認証の仕組みやプログラムの概要について整理する。

憲法においてどのような教育を提供するか自由が保障されているオランダではどの教育段階においてもナショナルカリキュラムは存在しない。これは就学前教育段階においても同様である。しかし、とくに VVE に関しては高い質の教育を与えることで高い効果を期待できるという前提から、VVE に用いられるカリキュラムには一定の基準が設けられている。教育監査による評価指標²を参照すると、特に VVE プログラムの使用に関しては、「就学前教育(voorschoolse educatie)の質の基本条件に関する決議 (Besluit basisvoorwaarden kwaliteit voorschoolse educatie) の第 5 条を順守する統合的なプログ

ラムを使用するようにしなければならない。これは、乳幼児が、4つの発達領域（言語、数、運動、社会情緒）における発達を刺激されるようなプログラムであるということを意味する。地方自治体は、このことを助成金の条件とすることもできるし、これに関して施設と別々に合意を取ってこれを調整することもできる。」³とある。また、この評価枠組みの中には、「Sardes や NJi が評価した統合的プログラムを用いるよう合意している地方自治体もある。」⁴との文言もあり、Sardes やオランダ青少年研究所（Nederlands Jeugdinstituut、以下 NJi）が認証した統合的プログラムが、すなわち基本条件第5条にのっとっていることを示している。

では、このプログラム認証はどのように行われるのであろうか。VVE プログラムの認証は義務付けられていないものの、プログラム開発者が自ら NJi に申請することで、研究者、実践者、政策立案者らから構成される評価委員会によって評価がなされ、基準を満たしているものは NJi のウェブサイトにあるデータベースに公開される仕組みとなっている。

介入プログラムの評価対象として資格を得るためには、対象年齢、マニュアルの有無、実践の評価可能性などいくつかの基準を満たす必要がある。条件を満たし、介入の評価申し込みが受理されると、Nji のオフィスにて評価委員会の会議が行われる。この段階では、さらに理論に基づいてプログラムが設計されているかが調査される。

VVE プログラムの評価委員会は、「発達促進、教育に関連する青少年福祉（Deelcommissie Ontwikkelingsstimulering, onderwijsgerelateerd en jeugdwelzijn）」と呼ばれる下位委員会である。現在の委員会は大学・カレッジ所属の研究者6名、独立行政機関所属の2名、政策担当者1名の計9名によって構成されている。

現在、施設型の統合的プログラムの中で NJi の認証を得ているものは、8つあり、そのうちの2つが本稿で参照する「ピラミッド(Piramide)」と「ウックとブック(Uk en Puk)」である。どちらのプログラムも言語、数、社会情緒、運動の4領域の発達を促進するプログラムであり、テーマに基づいて遊びが構造化されているなどの特徴がある。これはすなわち、エスニック・マイノリティなど、民族文化的差異から生じる発達観の違いというよりも、より個人を対象とした発達観の下、「不利」な子どもたちにより多くの機会を与えることを重視するものであることが分かる。

本稿で取り扱うピラミッド、そしてウックとブックに関する資料は、Nji が主催する認証評価の際に、各プログラムの関係者が作成した記述であり、資料として NJi が収集し、ウェブサイトに公開されている。ピラミッドの資料は2016年、ウックとブックの資料は2019年に評価されたものである。

2. プログラムの概要（目標、内容）

2-1. 目標

本節では、プログラムの方針を示す目標について整理する。資料では、まず目標についてそれぞれ以下のような内容が言及されている。

＜ピラミッド＞⁵

◆ 主な目標

ピラミッドの主な目標は、安全な環境とポジティブな教育環境で6つの発達領域における幼児の発達を刺激し、教育上の不利益を防止または軽減することである。

◆ 下位目標

ピラミッドの目標は、発達領域に細分化されている。各発達領域には独自のコースラインがある。一つのラインは目標の集まりで構成されている：主要目標と下位目標（中間目標とも呼ばれる）。目標は、最終学年のグループで子どもたちが何をできているべきなのか、何を知っているべきなのか、少なくともどんな経験を積むべきかを示している。目標の難易度は上がっていく。

ピラミッドは以下の発達領域に焦点を当てている：

1. 個性の発達 (persoonlijkheidsontwikkeling)、社会情緒的発達、道徳的発達、遊びと学習における行動
2. 運動発達：体育、感覚運動及び書くことの要件
3. 芸術的発達：視覚的発達、音楽的発達、遊びとダンス
4. 言語的発達：口頭伝達、記憶と識字の萌芽
5. 観察、試行、計算、自然と技術に関する発達
6. 空間と時間、世界に対する見方へのオリエンテーション

これらの目標は、様々な発達領域の専門家と協力してまとめられており、言語、算数、社会情緒的発達に関する SLO⁶の目標と、2006 年の主要目標で SLO が策定した第 1 学年および第 2 学年の中間目標と学習進路を網羅している (SLO 2008)。オランダ専門知識センター (Expertisecentrum Nederlands (TELL))、フロイデントール研究所 (het Freudenthal instituut (TAL))、アムステルダム大学 (語彙に焦点を当てた目標) からの情報も含まれている。以下に、各発達領域の主な目標と関連する下位目標の例を示す。

個性の発達 (persoonlijkheidsontwikkeling)、社会情緒的発達、道徳的発達、遊びと学習における行動の例

B. 自律性
単純な選択ができる。
何を望んでいるのか他者に明らかにすることができる。
食べ物の味など、自分の好みに気づくようになる。

運動発達：体育、感覚運動及び書くことの要件

O. 身体意識
体の一部分を感じ、指し示し、名前をつけることができる。
固定点から全身を使って動きを模倣することができる。

芸術的発達：視覚的発達、音楽的発達、遊びとダンス

P. ごっこ
(物体に基づいて) 現実的な状況や知っている人物を模倣することができる。

言語的発達：口頭伝達、記憶と識字の萌芽の例

B. 相互的な学習
本や教材に関する思考的な質問、聞き取りの質問、予測する質問に答えたり、自分が考えたり、やろうとすること、発見したことを言い表したりできる。それによってますます複雑な言語機

能を使用できるようになる：理由、比較、結論。
聞いた情報と自分自身の（以前の）知識や経験との関係を位置づける。
自分の意見を表現し、他者の意見を聞くことができる。

観察、試行、計算、自然と技術に関する発達

F. 測る
直接比較することにより、物体の長さ、体積、重さを大まかに測定し、大きな違いを挙げることができる。
表面の大きな違いを経験している（例：バスタオル、人形のブランケットなど）。

空間と時間、世界に対する見方へのオリエンテーション

B. 空間でのオリエンテーション
入る（中にある）、出る（外にある）、上に、離れるなどの単純な空間概念を認識して適用できる。
単純なルートをとどることができ、可能であれば言い表すことができる。
物体の場所を示したり、自分の空間を確保したりすることができる。

<ウックとブック>⁷

◆ 主要目標

VE プログラムとしてのウックとブックは、音声言語発達、社会情緒的発達、運動感覚発達、初歩的な算数の4つの特定の発達領域で幅広い発達を刺激することにより、チャイルドセンターに通う0～4歳の子どもたちの教育上の不利益を予防、軽減すること、そしてそうすることで、彼らが小学校でより良いスタートを切ることができるようにすることである。

◆ 下位目標

ウックとブックでは、可能な限り多くの発達目標が達成されるように、子どもの幅広い発達に取り組みされる。このプログラムは、音声言語発達、社会情緒的発達、運動感覚発達、および初歩的な算数の発達のための刺激という4つの発達領域に焦点を当てている。

これら4つの発達領域について下位目標が策定されており、年齢カテゴリまたは発達段階（0～1.5年、1.5～2.5年、2.5～4年）ごとに区別される。一般的に、最初の年齢カテゴリの下位目標の焦点は経験の獲得にあり、2番目は経験の拡大とスキルの練習にあり、最後はスキルの適用と拡大にある。これらの下位目標はすべて、CEDの発達経路とSLOの目標に基づいて策定されている。

ウックとブックは、テーマセクションで詳しく説明されているテーマと関連する活動によって取り組まれる。各活動では4つの発達領域すべてについて、年齢カテゴリまたは発達段階ごとの具体的な下位目標が記されている。

音声言語発達	0～1.5 歳	テーマ「どうぞめしあがれ」 「ん～（mmm）」や、「ばあ！（bah!）」のような感嘆を理解する。そして、これを模倣しようとする。
	1.5～2.5 歳	テーマ「どうぞめしあがれ」 「ばあ！（bah!）」や、「ん～（mmm）」という気持ちに名前をつけ、食べ物絵を認識する。

	2.5～4 歳	テーマ「どうぞめしあがれ」 彼が何をしているのかについて名前をつけて、これについて別の子どもと話す。いくつかの食品の名前を確認する。
運動感覚発達	1.5～2.5 歳	テーマ「雨」 雨が降っているかどうか感じることを通じて、濡れている状態と乾燥している状態の違いを発見する。
	2.5～4 歳	テーマ「どうぞめしあがれ」 さまざまな食べ物のおいさをかいだり味を試したり、スプーンで鍋をかき混ぜたりする。
社会情緒的発達	0～1.5 歳	テーマ「雨」 水滴に魅了される。
	1.5～2.5 歳	テーマ「雨」 より長い時間活動に参加することができる。
	2.5～4 歳	テーマ「これが私」 物語の主人公の気持ちを認識し、嬉しさと怒りの気持ちを表現することができる。
初歩的算数発達	0～1.5 歳	テーマ「ようこそブック」 教室の中で動く。
	1.5～2.5 歳	テーマ「ようこそブック」 場所の前置詞を理解している（上に、横に、中に）。
	2.5～4 歳	テーマ「ようこそブック」 場所の前置詞をたくさん使用する（中に、上に、下に、後ろに、前に、横に）

表1 具体的な下位目標の例

出所：「ウックとブック説明資料」（pp.7-8）をもとに筆者訳出。

二つのプログラムの共通するのは、主要目標として教育における不利の予防と軽減を目指しており、さらに下位目標では複数の発達領域に働きかけるとしている点、そして SLO（国立カリキュラム研究所）や大学、その他の専門機関も関わりながら目標を作成している点である。下位目標には差異があるものの、どちらも言語、社会情緒、運動、算数に関する発達目標が含まれており、目標に関しては共通している部分が多い。教育達成の支援という社会的課題に主眼を置いた主要目標が達成するための下位目標が発達領域に落とし込まれていることがわかる。この主要目標と下位目標の間をつないでいるのは、国内外の学術研究による知見や理論である。

2-2. 内容

次に、それぞれのプログラムの構造について、資料から訳出したものを抜粋する。

<ピラミッド>⁸

◆ 対象

2 歳から 7 歳の全日保育所、プレイグループ、基礎学校第 1 学年第 2 学年に通う子どもで、様々な領域の発達において不利のリスクがある子どもたち。

◆ 継続時間

少なくとも週 4 日もしくは週 10 時間参加することが重要である。

◆ 内容

日常的プログラム：子どもは豊かな遊び・学習環境で自分で選択し、自分で学ぶことができる。彼らのアイデアを活かして一緒に遊ぶように彼らを導く。グループ探索は、ペダゴジカルスタッフ、保育士、または教師が主導で準備され、実行され、子どもたちと協力して特定の目標に向かって取り組む。彼らは、子どもたちに知られていること、具体的に知覚できることから始め、広げ、深めることによって、段階的に距離をおく。

遊ぶ、探索する、自立して学習する：(コーナーや教材は) 明確な構造で、よく整理されて配置されているため、子どもたちが自分で選択し、独立して活動する機会を与える。遊びと独立した学習の保育者/教師による指導は、子どもたち自身が自分の学習を導き、自分自身の目標を達成するためにできるかぎり自立的に遊び、学ばせることに焦点が置かれている。子どもの遊びの観察に基づいて専門家は、子どもが指導を必要とするかどうか、必要な場合はどの程度かを評価する。

◆プロジェクトとテーマ

ピラミッドは、毎年新しい角度で実行できる 11 のプロジェクトを開発している。一つのプロジェクトは2～3 週間続く。

各プロジェクトは、具体的なものから抽象的なものまで、オリエンテーション、デモンストレーション、広げる、深めるの4つのステップで構成されている。最初のステップでは、子どもたちは自分自身をテーマに慣れさせる。驚かせるような活動や教材が子どもたちをテーマに熱中させ、子どもたちはテーマについてすでに知っていることを反復する。

その後、遊び・学習環境や新しい知識やスキルが導入

プロジェクト	テーマ
ようこそ	プレイグループへようこそ
人	私とあなた
食べ物と飲み物	ん〜、おいしい！
秋	カシャカシャ秋の葉っぱ
住むこと	わたしの家にだれがきたのかな？
パーティー	あなたもいっしょにお祝いする？
病気と健康	キス・・・ほらよくなった！
服	私はあれが着たい！
春	やったー！春だ！
芸術	もちろんアート！
交通	ブーン、リンリン！
サマータイム	夏のワクワク

表2 プロジェクトの種類とテーマ

出所：「ピラミッド説明資料」(p.13) をもとに筆者訳出。

される中で、感覚を持って具体的な教材で探求する。この知識とスキルは、最後の2つのステップで繰り返され、拡大され、深められる。具体的な教材とオリエンテーションとデモンストレーションのステップでの活動を体験した後、子どもたちは頭の中で表現をすることができる。テーマに関連するイメージがあり、いくつかの基本的な言葉を知る。その結果、彼らはこれまで以上に高いレベルで、そしてより複雑で抽象的にテーマについて考え、話すことができる。広げると深めるのステップからの活動もこれを促進する。たとえば、それらは子どもたちに、テーマのある体験を以前の体験にリンクさせ、問題を提示し、比較と推論を促す(「どうして…？こうしたらどうなるのか…？」)。

＜ウックとブック＞⁹

◆ 対象

ウックとブックは、0 歳から 4 歳までのすべての子どもを対象とした施設型の幼児教育(VE)¹⁰プログラムである。テーマによって構造化されており、遊びと言語が中心となっている。家庭での親の関与に焦点をあてた親向けの内容がある。ペダゴジカルスタッフのトレーニングと継続的な専門化も介入の重要な部分である。

◆ 継続時間

ターゲットグループの子どもには、VE 提供の時間の基準が適用される。現在の基準は、40 週間にわたって週に 10 時間である。2020 年 8 月から（一部の自治体ではそれより早く開始される）、子どもが 2.5 歳の時から 4 歳になるまでの提供の合計が 960 時間という基準が適用される。したがって 1 日あたり最大 6 時間が VE の提供という計算になる。

◆ ペダゴジカルスタッフ

認証されたペダゴジカルスタッフの指導の下で、法的な教師と子どもの比率に従って提供される。ほとんどの場合、これは、ウックとブックを使用する際に 16 人の幼児のグループに対して 2 人の認証されたペダゴジカルスタッフを意味する。これにより、小グループでの活動も可能になる。

ペダゴジカルスタッフは、グループ内の子どもたちの発達とニーズに合わせた、多様でやりがいのある提案を生み出すためにテーマセクションを使用する。テーマ計画によって 6 週間のテーマを準備する。導入および最後の活動を除いて、活動の順序はペダゴジカルスタッフによって決定される。スタッフは、グループの形態、活動の種類、そしてそれが毎日のルーティンと結びつくことに基づいてこれを行う。1 週間の間に、毎日提供されるテーマセクションから 2 つのテーマ活動が選択される。計画を立てる際にペダゴジカルスタッフは、結果志向の取り組みの結果としてのグループの特定のニーズに沿って、チャイルドセンター、休日、季節の展望に基づいて活動を追加する。

◆ テーマ

12 のテーマで構成されている。：基本的な 10 のテーマはそれぞれ 6 週間続き、さらに 2 つの選択テーマがある。基本的な 10 のテーマは、子どもの経験世界につながるように選択されている。

10 の基本的テーマは次の通りである。

「ようこそブック！」「今日は何を着ているの？」「どうぞめしあがれ！」「これが私！」「巨人とこびと」「雨」「はっくしゅん！」「ぬいぐるみ」「はあ～、あたたかい！」「私と私の家族」

本章では、各プログラムの内容について整理した。目標とする発達領域ごとに細かい内容項目が設定され、テーマのサイクルに沿って活動しながら目標達成を目指す点で共通している。本稿には掲載できなかったが、こうした内容にはすべて理論的背景がある。二つともヴィゴツキーの発達の最近接領域が大きな基盤となっているようである。ピラミッドは国際的に影響を与えたピアジェやエリ

クソン、ブルーナーの理論を使用しているのに対し、ウックとブックはヴィゴツキーの文化－歴史的発達に関する理論やオランダ国内での研究による知見を中心に基盤が組み立てられているという違いが見られる。

3. 品質管理

最後に、プログラム実施の際の質の管理について資料から訳出し、抜粋する。

＜ピラミッド＞¹¹

◆ 質のコントロール

ピラミッドの質を監視するために、ペダゴジカルスタッフ、保育士、および教師に義務付けられた認証プロセスが開発された。この一部は、実際のピラミッドのパフォーマンスの質を評価するために、トレーナーが保育士/教師と協働で適用するピラミッド実施評価（2011）である。ピラミッドのすべての関連する目標を観察可能な特徴で示している。

ピラミッドの運用においては、PIA（ピラミッド実施アセスメント）の基準を満たす品質マーク（keurmerk）がある。この品質マークは、Cito のピラミッドトレーナーによって 5 年に 1 回検査される。この品質マークは現時点では必須ではない。認証後の品質保証の枠組みで方針を立てることは、依然として組織経営管理者の責任である。

以下にいくつかの重要な条件を示す。

- ◆ 幼児は少なくとも週に 4 日（半日ずつ）全日保育所またはプレイグループを訪れている。
- ◆ 保育士/教師と子ども（小グループ）の数は好ましい比率である。
- ◆ 社会情緒的発達または認知発達の領域で遅れがある子どもたちのために設置されている個別教師（保育士/教師の二重スタッフ）が利用可能である。
- ◆ 施設には必要なピラミッドの教材がある。
- ◆ 子ども追跡システムが使われている。
- ◆ 教室、(遊びのための) ホール、屋外スペースには、コーナーと豊かでやりがいがある。
- ◆ 遊び・学習環境を創り出すのに十分な可能性とスペースがある。たとえば、発見コーナー、考えるコーナー、家コーナー、言語コーナー、ストーリーテリングテーブル、水/砂テーブル、視覚に訴えるようなコーナーである。
- ◆ チームによってサポートされているピラミッドの導入と品質保証に関する明確な方針がある。
- ◆ 保育士と教師は、彼らのグループでピラミッドをうまく実施し、質を保証するための知識、スキル、態度の発達を認証されたピラミッドトレーナーによるトレーニングとコーチングによってサポートされている。例えば、コーチングは、子どもたちに相互作用の中で考えさせるような場での専門家の敏感な態度に焦点を当てている。
- ◆ 全日保育所/プレイグループと子どもたちが通う基礎学校の間には、良好な連携と移行

がある。

<ウックとブック>¹²

ウックとブック実施の質を保証するために、VE プログラムウックとブックにはいくつかの条件が作成されている。

以下はそのうちいくつかを抜粋したものである¹³。

- ◆ ウックとブックは、認定されたペダゴジカルスタッフペダゴジカルスタッフによって実施される。彼らはウックとブック VE トレーニングを受け、認定基準を満たしている。または、ペダゴジカルスタッフは引き続きトレーニングを受講中で、実践的課題を遂行しているところである。
- ◆ 区別された遊びと広い範囲の発達の刺激が可能なテーマコーナーを含め、すべての発達領域をカバーするコーナーの豊かな遊び・学習環境がある。
- ◆ チームによってサポートされているウックとブックの実施と品質保証に関する明確な方針がある。質はペタゴジーコーチによって構造的に監視されており、年に一度 GGD の監督もこれを監視している。
- ◆ トレーナーは、CED グループによって認定されたトレーナーであり、少なくとも関連する HBO 教育を修了している。トレーナーが MBO-3 または MBO-4 のディプロマを持っている場合、雇用主はこの人がトレーニングレベルを担当できることを証明できる。
- ◆ グループの規模と 4 つの目原則：グループは、2 人のペダゴジカルスタッフに対して最大 16 人の幼児で構成されている。
- ◆ 子どもたちは 2.5 歳から 4 歳までの間、週に少なくとも 10 時間、最低 3 日（半日）ウックとブックに参加する。2020 年 8 月から（一部の基礎自治体ではそれ以前に）、2.5～4 歳の間、子どもたちは最低 960 時間このプログラムに参加する。
- ◆ 体系的に作成された、および/または具体的な活動で強調された親方針計画があり、この計画は実際に実行されている。

本章では、プログラム実施の際の品質保証に関して資料から抜粋した。プログラムへの参加の強度が設定されている点や、遊び・学習環境についての要求がある点、そしてプログラムを実施する保育者や教師の資格の要求、質の管理についての要求などで共通している。すべての条件が資料に示されているわけではないため、違いを見るためにはさらに追加資料が必要である。

おわりに

本稿では、オランダで VVE プログラムとして認証されている「ピラミッド」と「ウックとブック」の内容と品質管理に焦点を当てて整理した。教育における不利益の予防と軽減が大きな目標として設定されているが、実践レベルになると幼児教育としての質の高さやそれぞれのプログラムが持つ発達観が強調されているように思われる。このギャップが成立しているのは、質の高い幼児教育が子どもたちにも社会にとってもハイリターンをもたらすという、国際的に広く普及している前提であると考

えられる。モスの「質とハイリターンの物語」¹⁴の枠組みで見ると、オランダの VVE プログラムもその影響を大いに受けていることが分かる。Moss(2014)によると、「質とハイリターンの物語」では保育は人的資本を創出するための営みと見なされ、スタンダード、コンピテンシー、アウトカムを重視する問い前提の下、①教育や介入において早期に投資する必要性、②事前に定義された目標（成果が事前に決められる）、③質が高いこと、④技術の厳密な選択と適用（エビデンスに基づく技術の選択と正確な適用）の 4 つが条件となるとされている¹⁵。本稿で扱った二つのプログラムも、これらの条件をすべて満たしている。しかしながら、これを単に新自由主義的な幼児教育観と見なすことには疑問がある。オランダではこれらの条件はあくまでも設計の基礎で、それが現実世界をすべて規定するものではないはずである。さらに実践現場での観察をすることでオランダ国内ではあくまでも足場として扱われる理論や科学的根拠が、海外に移植される際には信頼性の象徴として適用されることが説明できるようになるだろう。

¹ Definitie' [https://www.nji.nl/nl/Databank/Cijfers-over-Jeugd-en-Opvoeding/Cijfers-per-onderwerp-Onderwijsachterstanden#ch313756\(2019/12/10\)](https://www.nji.nl/nl/Databank/Cijfers-over-Jeugd-en-Opvoeding/Cijfers-per-onderwerp-Onderwijsachterstanden#ch313756(2019/12/10))

Kloprogge, J. en de Wit, W. (2015). Het onderwijsachterstandenbeleid na 2015. Literatuurstudie t.b.v.expertbijeenkomst OAB september 2015. Nationaal Regieorgaan Onderwijs onderzoek

² Inspectie van het Onderwijs. (2017) ONDERZOEKSKADER 2017 voor het toezicht op de voorschoolse educatie en het primair onderwijs. <https://www.onderwijsinspectie.nl/onderwerpen/onderzoekskaders/documenten/rapporten/2019/06/06/onderzoekskader-2017-po-en-vve> (2020/01/16 最終確認)

³ Ibid.

⁴ Ibid.

⁵ N.Ji. (2016) *Uitgebreide beschrijving Interventie Piramide*. pp. 6-9. <https://www.nji.nl/nl/Download-NJi/Werkblad/Uitgebreide-beschrijving-Piramide.pdf> (2020/09/30 最終確認). 以下、「ピラミッド説明資料」とする。

⁶ 国立カリキュラム研究所のこと。

⁷ N.Ji. (2019) *Uitgebreide beschrijving Interventie Uk en Puk*. <https://www.nji.nl/nl/Download-NJi/Werkblad/Uitgebreide-beschrijving-Uk-en-Puk.pdf> (2020/09/30 最終確認). 以下、「ウックとブック説明資料」とする。

⁸ 「ピラミッド説明資料」 pp.10-16.

⁹ 「ウックとブック説明資料」 pp.9-12.

¹⁰ Voorschoolse Educatie(VE)は、2 歳半から 4 歳までの基礎学校入学前の子どもたち向けの教育段階を指している。

¹¹ 「ピラミッド説明資料」 pp.19-20.

¹² 「ウックとブック説明資料」 pp.21-22.

¹³ 訳者が訳出したものを抜粋した。

¹⁴ Moss, P. (2014). Transformative change and real utopias in early childhood education: A story of democracy, experimentation and potentiality. Routledge.

¹⁵ Ibid.

Research note over scientific basis in the curricula of Dutch compensative early childhood education

Sayaka Fukuda

This research note summarizes the similarities and differences in educational goals and way of quality control between two compensative early childhood education programs' curricula in the Netherlands. I refer to two documents over the curricula which Netherlands Youth Institute (Nederlands Jeugdinstituut (NJI)) collected to accredit two different programs, 'Piramide' and 'Uk en Puk'. In addition to summarizing, I confirm the significance of curriculum analysis in clarifying the factors that influence the views of development and early childhood education embedded in early childhood education in the Netherlands.

As a result of the examination, prevention and diminishing of disadvantages in education are set as the main goals in both programs, but at the practical level, it seems that the high quality of early childhood education and the developmental view of each program are emphasized. It is considered that this gap is established on the premise that it is widely used internationally; investing in quality early childhood education brings high returns to both society and individuals. However, in the Netherlands these conditions are merely the basis of educational design and should not define all of the real world. By further examining the scientific evidence embedded in the curriculum, it will be possible to explain that the theories and grounds used as starting points in the Netherlands are applied as a symbol of reliability when exported overseas.